

松山市中心地区

(愛媛県松山市)

- 計画期間 平成16年度～20年度
- 面積 450ha
- 交付対象事業費 8,862百万円
- 市人口 513,038人(地区内人口51,000人)

ポイント 小説『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり

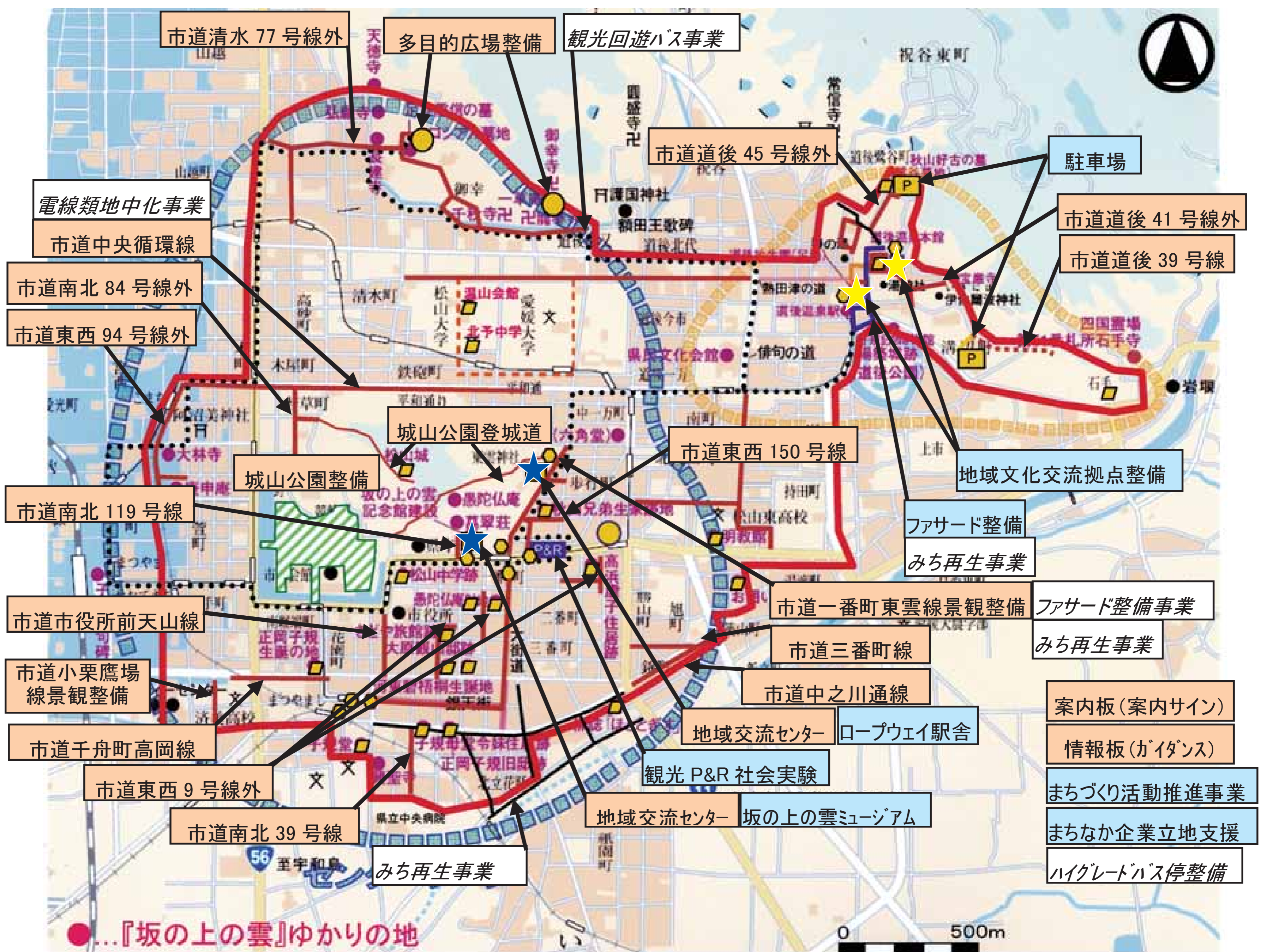
地区概要 交流拠点の整備とネットワークで結ぶ回遊型観光の構築及び、観光文化等交流施設の利用促進を図り、物語のある回遊型の都市観光を推進し、地域再生を図る。

目標 『坂の上の雲』フィールドミュージアムの具現化により、都市観光の振興を図り、「市民生活の質の向上」と「地域経済・社会の活性化」を目指す。

指標 有形・無形の地域資源をネットワークで結ぶ、物語のある回遊型の都市観光の推進を図り、観光入込み客数の増加を指標として、地域経済・社会の活性化を高める。

観光入込み客数	500万人	(H14)	→	600万人	(H20)
公共交通機関利用数	2,590万人	(H14)	→	2,622万人	(H20)
交流施設の利用者数	180万人	(H14)	→	216万人	(H20)
誘致企業の新規雇用者数	0人	(H14)	→	2,000人	(H20)

事業内容 基幹事業(6,716百万円)→ 道路(5路線 1,098m)、公園(9.4ha)、地域生活基盤施設(案内板:案内サイン,情報板:ガイダンスシステム,広場:多目的広場,駐車場)、高質空間形成施設(市道中央循環線外 緑化施設等)、高次都市施設(地域交流センター 2,245㎡)
提案事業(2,487百万円)→ 観光 P&R 社会実験(1箇所)、ファサード景観整備、地域文化交流拠点整備(800㎡)、『坂の上の雲』記念館(1,095㎡)、ロープウェイ駅舎(330㎡)、まちなか企業立地支援、まちづくり活動推進事業



地区の現況と課題

本市の観光拠点である、日本最古の温泉で国重要文化財に指定されている道後温泉及び築城 400 年の歴史を持つ松山城等の来訪者数が減少している一方、地域に多く埋もれている歴史・文化資源は、地域の活性化、更には中心市街地の活性化に活かされていない。

提案事業の特徴

観光 P&R 社会実験

路面電車・観光回遊バス等の交通結節点直近の民有地を有効活用したフリッジ型の駐車場を確保し、自家用車から公共交通へ回遊促進する観光パーク&ライドの導入実験を実施する。

坂の上の雲ミュージアム

センターゾーンに位置し、まちづくり活動拠点機能を備えた施設で、H19. 4. 28 に開館した。初年度の入場者数は、当初目標 10 万人を約半年で達成し、年間 15 万人を記録。また、まちづくり活動サポートとして、講師を招いたまちづくりセミナーやイベントを行っている。

まちなか企業立地支援

雇用の創出とそれに伴う市民所得の増大及び消費拡大を図るための基盤整備として、中心市街地で、民間による大規模インテリジェントビル整備の誘発を図り、拠点事業所としての情報通信関連等業務系大規模事業所の誘致を図る。

計画策定プロセス

『坂の上の雲』を軸とした 21 世紀のまちづくり

平成 11 年度に基本構想を作成し、平成 12 年度の基本計画の中で、松山城周辺のセンターゾーンと 4 つのサブセンターゾーンを位置づけ、『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想を策定し、事業の実施に向けた取り組みを官・学・民から成る「まちづくり推進協議会」で検討・審議を経て行うこととしている。

市民参加の仕組み作り

平成 15 年、地域のまちづくりを行う人材育成のための「まちづくり市民塾」を開催し、まちづくりNPO等に対する支援活動を行っている。現在、市民塾を卒業した人々がそれぞれのまちづくり活動を行うとともに、インストラクターとして後進の指導を行っている。

また、NPO や市民団体が自ら企画し、地元住民と連携を図りながら取組む地域資源を活かしたまちづくり活動の活動支援を公募により行い、3 カ年を目途に自主・自立した運営を目指している。支援が完了した団体は、新しいステージで活動を開始し色々な成果を出してきている。

松山市長中村時広のコメント

本当の意味でのまちづくりというのはなんだろうと、市長就任以来議論して参りました。まちづくりを進めるに当たり最も大切なことは、市民の皆さんにいかに参加していただくかということであり、「坂の上の雲のまちづくり」のキーワードであります。

これらの「坂の上の雲のまちづくり」によって創出された新たな魅力が全国に誇れる大きな地域資源となり、市民と行政が協働することにより、次世代へ引き継がれる住みよい松山になると確信しております。



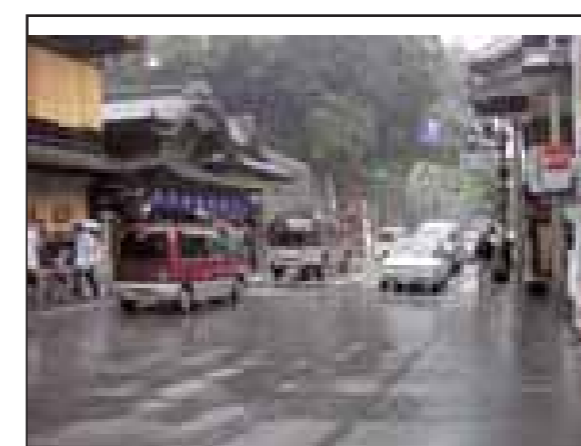
▲まち全体が屋根のない博物館



▲まちづくりの中核「坂の上の雲ミュージアム」



▲松山城への玄関・ロープウェイ通りの整備



▲ゆったり記念撮影も可能となった道後温泉

▼フィールドミュージアムサポート委員会での支援状況



一遍上人誕生地（宝厳寺）での地域活動▲

＝ フィールドミュージアムサポート委員会 ＝

委員長 郡司島宏美のコメント

市民で支えるフィールドミュージアムの具現化のために、地域でがんばる諸団体を支援してきました。支援内容も地域の歴史的な建物や文化資源を核とした活動提案だけでなく、お接待や語り、ウォーキングなど、モノとしての資源をつなぎ、活かす可能性のある活動への支援が出てきました。次の課題は団体間のネットワークです。平成 19 年には坂の上の雲ミュージアムも開館し、まちづくりの交流拠点もできました。ミュージアムで行うまちづくりサロンでは、「魅力的な町に！」という思いを一つに、多くの人が集い、意見を交わし、支え合うこと、それを目指して行政とともに歩んでいきたいと思えます。

＝ 松山ロープウェー街まちづくり委員会 ＝

委員長 杉本 茂のコメント

我々の商店街（通称ロープウェー商店街）は松山城のお膝元にあるセンターゾーンに位置づけされた商店街で、近隣に秋山兄弟邸跡もある、庶民的な商店街です。

平成 15 年にファサード整備を始め、道路景観整備を 3 年越しで行いハードは立派に出来上がりましたが、まだ上手く活用しているように思えません。

今までには「まちづくり委員会」を立ち上げて、10 年前より 11 月 3 日に「城山門前まつり」を開催してきました。すべてが手作りのイベントで地産地消のコーナーや地元商店、高校生の物産コーナーなど多岐に渡ったイベント内容です。歩行者天国にして約 3 万人の来街者が来られた年もあります。

素晴らしいハードを得ているので、これからはこの景観を守りながら次世代にも誇れるような多機能複合型の商店街として将来的に発展していくよう、地元が一体となって取り組んで参ります。